

周産期からの子育て支援に取り組むスタッフをつなぐ

ハロー・ファミリーカード通信



「私たちは、妊娠・出産から始まる子育てを応援します」

第6号

＜平成27年3月発行＞

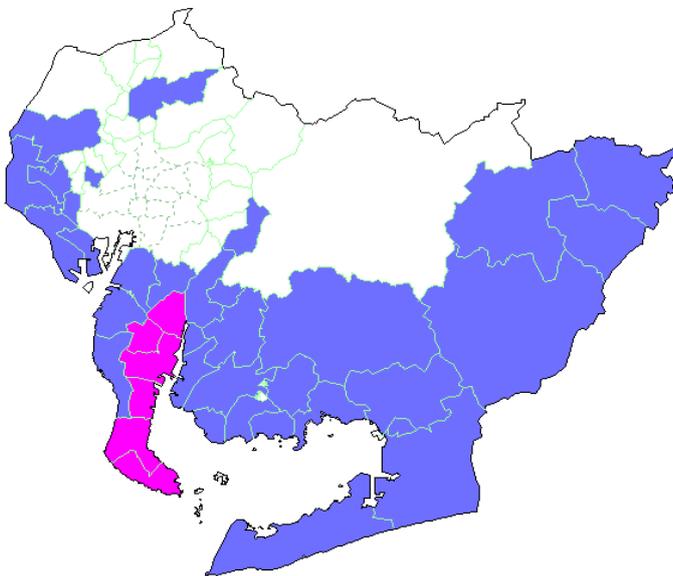


～母と子に切れ目のない支援を～

平成18年1月から始まったハローファミリーカード・プロジェクトは、平成25年度までに愛知県の多くの保健所管内（下記白地図の青色部分）が参加するプロジェクトとなりました。

プロジェクト参加地域（ピンクは26年度参加）

国土地理院承認 平14経機 第149号



愛知県

そして、平成26年度には、プロジェクト参加機関が**109機関**（42保健機関、49医療機関、14助産機関、2母乳相談室、1歯科医療機関、1福祉機関）となりました。県内において、100を超える機関の医療と保健等の現場スタッフが協働して子育て支援に取り組み、子育て不安の軽減や虐待予防を目指すことになり、支援の輪がひろがっています。

カードは、子育て上の些細なことでも相談してよいという気持ちに母になるための**支援ツール**であり、医療機関から保健機関につなげることの同意を母から得るための**連携ツール**でもあります。「心配なことがあれば、ここに相談していいんだよ。」という**メッセージと安心**を形にして伝えることができます。

カードの渡し方などは、各医療機関・助産施設、保健機関で工夫していただきます。名刺がわりに利用しているところがあれば、独自のメッセージを入れて相談しやすくしたり、医療機関の中には院内で実施しているケア内容を記載する等して、どのような支援が受けられるのか分かりやすくするための工夫をしている所もあります。

今後もそれぞれの機関で創意工夫をしながら、カードを通して、子育てをする母に安心感を提供できるようにお手伝いしていきたいと思います。

周産期医療現場スタッフと取り組む子育て支援に関する研修会

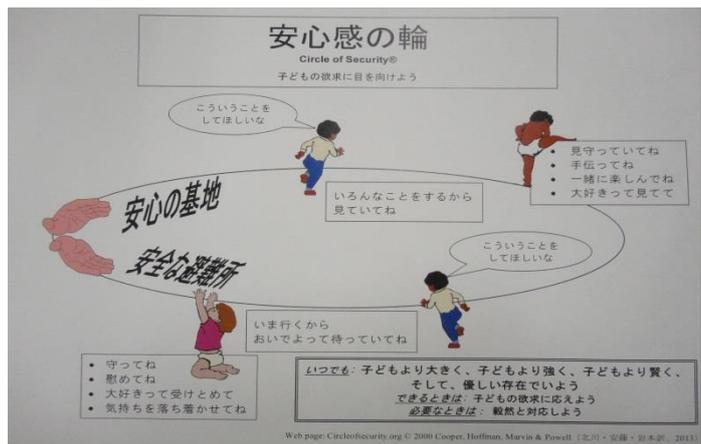
◆講演◆ 「アタッチメントに基づく親子関係の理解と支援
～乳幼児期から関係性支援を考える～

講師 甲南大学文学部教授・臨床心理士 北川 恵氏

平成26年8月11日（月）に研修会を開催しました。今回は、障害や家族葛藤などの様々なリスクを抱える親子への関係性支援の理論的・実践的研究に取り組んでいる講師をお迎えしました。

子どもの健やかな発達を支援する上で必要なアタッチメント形成に焦点づけた親子関係の支援、そして、母親が子どもの安全基地になれるための支援ができることを目的として、日本の第一人者である北川恵先生からご講演をしていただきました。

当日は保健機関や医療機関、保育・療育関係者など計74名の方々に参加していただきました。「アタッチメント」とは、「人間の基本的欲求であり、怖い時不安な時、頼りにしている大人にくっついて、安心や安全をもらう」。「安心感の輪」で子どもの安心基地となるための具体的なお話をいただきました。



感想として「子どもの処置の不安に寄り添うこと」「子どもに安心感を与えることが何よりも大切」「子育ては完璧を求めるのではなく、30%で良いと伝えてあげたい」「育児支援は親子ともに支えていくこと、乳幼児期のかかわりが大切であることがわかった」「正しい答えより子どものシグナルに気づいて答えようとする姿勢が大切である」「子どもが安心感を求めてアタッチメント行動が高まった時に安心感を与えられる関わり方を子育て支援の現場でも勧めていきたいと思う。」等が聞かれました。

Q：急性期病院で子どもが泣いている時、母は側にいるがスマホを触っている場面をよく見る。

A：母は全く平気で何も感じていないのではなく、母も無力で途方に暮れていて無関心のようにふるまっているかもしれない。基本的に母を尊重する関わりをプラスの意図で子どもに接すると良い。

Q：行政の分野で COSP を始めるには？

A：COSP は全8回だが、実践の中で親子のためなら部分的に使える。妊娠中の母親への予防的な実施や自閉症養育者への支援に COSP の視点を取り入れ試みも始まっている。

医療機関を訪問してお話をうかがいました。 **JA愛知厚生連渥美病院**

地域で活躍するハローファミリーカード



今回は、渥美半島における唯一の総合病院であり地域の中核医療を担っている渥美病院を訪問し、周産期と他の急性期混合病棟の助産師山元課長さんにお話を伺いました。
院内では、病棟を中心に小児科外来との連携も考えられています。

カードは、平成 22 年から導入。現在は退院指導時に全員に渡して日常業務となっています。当初は「心配な褥婦さんのみ」に限定し、その理由は、多忙な病棟への相談電話の増加を心配されたそうです。ところが、全員に渡すことにした後、夜中や明け方の相談が減り全体として相談件数は変わらない状態です。

カードの導入後、最も変化したのは「病棟スタッフの意識が変わった」ということです。中核病院として、産後も母乳のケアや赤ちゃんの体重測定と熱心な取り組みもされていますが、「ずっと病院だけで見ていけるわけではない」という考えのきっかけになり「地域の関係機関に繋ぐこと」を意識されたということです。



田原市の保健師さんに繋ぐには、「母子連絡票」を使用するのですが、連絡票に記入するなどの情報が子育て支援に必要なかを判断するスタッフの視点が大切ということでした。母児の身体状況だけでなく、兄弟や家庭環境、育児支援者の把握や母の不安感について入院中に把握されます。その働きかけが、患者様から「スタッフが優しい」と言われる所以ではないかと感じます。チームカンファレンスで情報は共有され判断されて地域への連絡へと繋がっていきます。その結果、母子連絡票の件数は増加。このしくみはスタッフ教育にもつながり、スタッフ一丸となって取り組まれています。カードの「お母さんひとりで悩まないで」は病棟からのメッセージです。



また、当日は今年度 2 回目の「保健医療福祉連携会議」が開催され、病院・市役所・保健所総勢 24 名の参加者が病院の会議室に集まり、母子から成人・高齢者の市民の健康について熱心に情報交換や討議がされていました。母子分野では、田原市が他市より「母の不安」での病院からの連絡件数が多い事、母乳率が高い事、小児科からの連絡は要保護児童家庭であった事等が報告され、平成 16 年から続く会議の中で培われた連携の結果や、地道な顔と顔のつながりの信頼関係を感じ、あたたかい気持ちになりました。

今回訪問して、病院スタッフが「安心安全なお産と楽しく育児できるような支援」を意識して地域に繋げてくださっていることがよくわかりました。



田原市健康課さんとパチリ

「退院後 楽しく育児をしてもらえたら何もい
うことはない`そのための支援と連携が大事」
と山元課長さんの笑顔と言葉が印象的でした。

愛知県統一の妊娠届出書は子育て支援活動の出発点

愛知県では、統一様式の妊娠届出書によって、支援が必要な家庭を妊娠中から把握し、早期から支援できる仕組み作りが進められています。医療機関、保健機関ともに、妊娠届出書から把握されたハイリスク者については、妊娠中から継続的な支援が行われることが期待できます。妊婦健診に来なくなってしまった場合に連絡して家庭訪問を行ったり、出産後退院前に保健師と母が面接したりと確実な早期支援のためのツールとして活用したいですね。虐待の未然防止に取り組みましょう！

妊娠届出時 スクリーニングの結果*愛知県全体では「妊娠前のタバコ妊娠中の喫煙飲酒」や「妊娠判明時うれしくない」「若年」「未婚」「経済的に困る」が11.7%~6.6%と高い割合でした。また、「妊娠届出時の週数が20週以降:0.9%」「夫婦関係で困っている:1.2%」「パートナーが無職、1人親で母親が無職:1.3%」「中絶2回以上:1.4%」は少ない割合でしたが、母の戸惑いや家庭生活の困難さ、脆弱さが感じられます。また、重みづけがされている項目「若年・妊娠判明時うれしくない・うつ状態歴・夫婦関係性」等や「支援者がいなくて孤立した環境」がある場合については、個別支援の必要性が高く、医療と保健で母に寄り添って、地域の社会資源の活用も含め家族の問題解決のための支援の糸口を探りながら、継続的な支援を続けていくことがとても大切だと考えます。

*数値は平成25年度の母子保健報告より

[あいち小児保健医療総合センターのホームページをご利用ください！](#)

◆周産期医療現場スタッフが取り組む子育て支援マニュアル

—周産期医療現場での親子支援に役立つ内容です—

<http://www.achmc.pref.aichi.jp/manual/kosodate/>

ユーザー名:**achemec** パスワード:**achemec** (ともに小文字で入力してください)

◆保健機関から医療機関へのPR

—愛知県内各市町村の妊娠中から乳幼児期の母子保健活動を掲載—

<http://www.achmc.pref.aichi.jp/Hoken/hokenkikanPR/hokenkikanpr.htm>

◆妊娠・出産・育児期に支援を必要とする家庭の地域における保健医療連携システム構築ガイドライン

—医療機関と保健機関の連携を考えるうえで必見です—

<http://www.achmc.pref.aichi.jp/Hoken/web/guideyanagawa.pdf>

◆愛知県乳幼児健康診査マニュアル(第9版)

—平成23年度から子育て支援の視点を取り入れた新しい健診体制になりました—

<http://www.achmc.pref.aichi.jp/Hoken/manual.html>



～ファミカ通信編集局より～ ファミカ通信は、保健や医療等の現場で多忙な毎日を過ごし

ておられるスタッフの皆様に向け、あいち小児センター保健室から発信する小さなメッセージです。今後も皆様と一緒に子どもと家族と未来を見つめた活動を続けていきたいと思っております。皆様からのご意見お待ちしております。*ファミカ通信を希望される場合は必要部数をお送りしますのでご連絡下さい。

発行 あいち小児保健医療総合センター保健センター保健室

〒474-8710 大府市森岡町7丁目436番地

TEL (0562) 43-0500 FAX (0562) 43-0504

URL:<http://www.achmc.pref.aichi.jp/index.html>

